



外国人介護人材の“リアル”をお届け！

## 鳥取県特集 “支え合い、育てる環境” VOL.03 外国人職員が定着した (通巻VOL.19)

### 鳥取県の介護現場

#### 外国人職員が“定着できる県”へ！ そのヒミツをここでお伝えします

社会福祉法人 こうほうえん  
よなご幸朋苑

今回取材したのは、鳥取県米子市にある社会福祉法人 こうほうえんさん。ベトナムとインドネシア出身の外国人職員が11名在籍し、他法人からも見学者が訪れるほど、「外国人職員の受け入れ体制が非常に整っている」ことで知られる法人さんです。現在のあたたかい職場環境の裏側には、うまくいかなかった経験も含めて、その“積み重ね”が、今のあたたかい職場環境につながっているだと感じました！

ベトナム出身の  
トゥアンさんインドネシア出身の  
ライサさん

今回伺ったのは...

#### 「入職して、すべてがびっくり！」

今回お話を伺ったのは、ベトナム出身のトゥアンさんと、インドネシア出身のライサさん。お二人とも、こうほうえんさんで初めて介護の仕事を挑戦しました。「入職して、最初の1週間はずっと見学でした。とにかく、オムツ交換から全部びっくりした記憶があります」そう話してくれたトゥアンさん。一方ライサさんも、「前職は工場だったので、介護の専門用語が全部新しくて、最初は何も分からなかったです」と、正直な気持ちを教えてくれました。それでも今では、利用者さんとの会話が毎日の楽しみに♪  
取材中、特に印象的だったのはトゥアンさんの姿です。普段はとてもシャイだそうですが、利用者さんの名前を自然に呼び、やさしい表情で接していましたが、心に残りました。

移乗介助でリフトをうまく  
活用したトゥアンさん人材が  
働く

#### 鳥取県の介護施設責任者に質問！

“人材育成で大事にしていることは？”

答えて  
下さったのは…

戸田課長

成長を、ちゃんと“見える形”にすること  
介護の手順を細かく分け、一つひとつ  
「できた」を確認し、できていればシールで見える化をしています。  
「今どこまでできるのか」が本人にも、  
周囲にも分かる仕組みがあります。  
先輩職員のエルダーが常に隣にいなくても、  
外国人職員は焦らず、自分のペースで  
成長できます。

さらに詳しいインタビューは裏面へ



#### 「先輩外国人職員のおかげで、成長できた」

困ったとき、どうしていますか？そう聞くと、お二人ともほぼ同じ答えでした。「難しい言葉があったら、まずメモします。意味を調べて、それでも分からなかったらエルダー（指導する先輩）に聞きます」トゥアンさんも、「周りに聞くようにしています。怖いと思ったことは一度もないです」と話してくれました。  
特に印象的だったのは、「聞けない雰囲気がない」ということ。  
介護現場は忙しい時間も多いですが、「今、聞いても大丈夫かな…」と遠慮しなくともいい空気がありました。この「聞きやすさ」こそが、定着の一番の理由なのではないかと感じました！

丁寧に食事介助をしている  
ライサさん

#### 「鳥取って不便？」と聞いてみると…

「鳥取って、正直どうですか？」と聞いてみると、お二人とも少し考えてから、顔を見合せてにっこり。トゥアンさんは、釣りや旅行が趣味で、休日にはいろいろ巡っているそうです。「気づいたら、ほぼ観光地の全部へ行きました」と笑って話してくれました！そんなトゥアンさんとライサさんに、「不便だなど感じるところはありますか？」と聞くと、少し困ったような表情を浮かべてから「……強いて言うなら、電車の待ち時間くらいですかね（笑）」思わずこちらも笑っていました。

二人からのおすすめスポットは、春と秋は鳥取砂丘と大山。

「夏は暑いけど、春と秋は本当に気持ちいいです！」とのこと



グローバル人材交流会！楽しそう！

ハイディの気づきと学び



成長が見える仕組みと「いつでも聞いてね」という職場のあたたかさが素敵でした。仕事以外でも交流会で地域や社会との接点が増えると、毎日がもっと楽しくなりますね。鳥取が「自分の居場所」になることが定着のヒミツだと感じました！

# こうほうえん

社会福祉法人

鳥取県米子市

課長  
戸田悦子さん

主任  
矢野真澄さん

## 外国人をどうやって育成していますか？



シールを活用しながら  
指導を行う

まず、入職してすぐに介護の仕事をしてもらうことはありません。最初の1週間は、現場を見学してもらう期間にしています。利用者さんとの関わり方、先輩職員の声かけ、介護の空気感。技術よりも先に、「介護とはどういう仕事なのか」「どんな気持ちで向き合う仕事なのか」を感じてもらうことを大切にしています。

そのうえで、少しづつ現場に入ってもらいますが、ここでも無理はさせません。介護の手順は細かく分け、一つづつ確認しながら進めていきます。できることは、シールを使って“見える化”。「今、どこまでできるのか」、「次は何を覚えればいいのか」が本人にも、周りにも一目で分かれます。エルダーが常に隣にいなくても、成長の過程が共有できる。この仕組みが、安心して学び続けられる環境につながっていると感じています。

## 失敗経験を教えてください！

以前は、「分かった？大丈夫？」と聞いてしまうことが多かったです。でも、返ってくるのはほとんどが「大丈夫です」という言葉。後から振り返ると、本当は分かっていなかった、聞きづらかったんだろうな…と気づきました。

その経験から、質問の仕方を工夫するようになると課長の戸田さん、主任の矢野さんが話してくださいました。

失敗をそのままにせず、「どうすればよかつたか」を考え続けてきたことが、今の育成につながっています！



## 未来への第一歩

### Heidy's Diary!とは？

日本で働く外国人介護人材のリアルをご紹介する月刊紙！インドネシア出身のヘイディが実際の介護現場にお邪魔し、外国人介護人材のお仕事や活躍の様子を独自の目線でレポートします。



#### Profile

ヘイディ

自分と同じく日本が大好きな外国人にとって、もっともっと働きやすい国にしたい。みんなの幸せが私の幸せにも繋がる！



#### Instagram

「ケア・いろ」(care\_iro)  
外国人介護人材応援メディア  
Instagramもぜひチェックしてみてください！  
一生懸命更新してます！

日本に来た当初、トゥアンさんにとって、介護の仕事はまったくの未知の世界でした。言葉も、仕事の内容も、すべてが初めてのことばかり。入職して最初の1週間は、現場を見学するところからのスタートでした。利用者さんとの関わり方、先輩職員の

声かけや動き、介護現場の空気感を、じっくりと見て、感じる時間。“いきなりやらされる不安”はなかったそうです。現場に入ってからも、分からぬ言葉はメモをし、困ったときは必ず周りに聞く。その積み重ねで、少しづつ「できること」が増えていきました。今では、利用者さんと自然に

会話をし、その人の人生の話を聞くことが、介護の仕事の楽しさになっています。今、トゥアンさんが目指しているのが、介護福祉士を取ること。一度挑戦した試験では、自信が持てず、悔しい思いもしたが「ちゃんと準備して、自信をつけてから受けたい」と、仲間と一緒に勉強を続けています。鳥取での暮らしを楽しみながら、ここで働き、成長していく。トゥアンさんの歩みは、未来へつながっていると思います！



頑張って焼き鳥を焼いてくれたトゥアンさん



実務者研修の思い出

## 取材 させて頂ける 介護施設様 大募集！！

外国人介護人材の採用・育成・定着に関する相談もお気軽にお問い合わせください！



ヘイディがお伺いします！  
お問い合わせはこちら

発行元：鳥取県 外国人介護人材支援事業事務局

(Zenken株式会社)

03-4212-2914 FAX 03-4212-2280

nc-support-tottori@zenken.co.jp



## 定着に繋げるために、何をしていますか？

仕事のことだけでなく、「人ととのつながり」をつくることをとても大切にしています。日々の現場の中でも、声を掛け合ったり、一緒に休憩を取ったりと、自然に話せる関係づくりを意識していますが、それに加えて、交流会や行事も大事な機会だと思っています。

例えば、国ごとの料理を紹介するイベントや、みんなで参加する行事を通して、仕事以外の一面を知ることができます。「こういう文化があるんだ」「これ、美味しい！」と、お互いを知るきっかけになるんです。



また、夏にはグローバル人材交流会も開催しています。インドネシア、ベトナム、フィリピン出身の方や、地域の方、他法人の外国人職員も参加し、

約50名が集まりました！（こちらは、鳥取県からの補助金で開催したそうです！）職場の中だけで完結せず、地域とのつながりを感じられることが、「ここで暮らしていこう」と思える安心感につながっていると感じています。仕事だけの関係ではなく、笑顔で話せる時間や、ホットできる居場所があること。そうした積み重ねが、定着につながっているのだと思います。

## ヘイディの 介護ワンポイントメモ



みなさん、  
頑張ろう！

「できないこと」ではなく、「できるようになったこと」に目を向ける。その積み重ねが、外国人職員の安心と、長く働きたいという気持ちにつながっているのだ



東京観光に行った時！

ライサさんが介護の仕事を選んだ理由は、「人とコミュニケーションを取りたい」という想いでした。

前職は工場勤務。介護の専門用語や、日本語の言い回しに、最初は戸惑うことも多かったそうです。「言葉が分からなくて、不安になることもあります」それでも、メモを取り、自分で調べ、分からなければエルダーさんに聞く。周りの職員が丁寧に向き合ってくれたことで、少しづつ自信を持つようになりました。今では、利用者さんとのやり取りや、職員同士の会話

の中で、「学ぶことがたくさんあって面白い」と感じているそうです。ライサさんの目標は、介護福祉士の資格を取得し、ずっと日本で働き続けること。初めての試験に向けて、緊張しながらも準備を進めています。分からないことは先輩に聞き、時にはトゥアンさんに相談することも。

仕事だけでなく、鳥取県での生活も大切にしながら、ここを“自分の居場所”として、これからも未来を描いている、トゥアンさんとライサさん。二人の歩みは、支え合い、育て合う環境の中で、これからも続いていきます。



ディズニーランドに  
行った時のライサさん

ケアいろ

